

CONET 2003 開催速報

— 建設機械と新施工技術展示会 —

2003年9月4日～6日 千葉・幕張メッセ

CONET 2003 事務局

去る9月4日(木)から6日(土)にかけて千葉市美浜区の幕張メッセ9, 10, 11ホールでCONET 2003 (International Exhibition for Construction Equipment & Technology) が開催されました。その概要をご報告します。

初日の10時より大石国土交通省技監, 中島経済産業省製造産業局次長, 国土交通省, 経済産業省, 協賛各団体, 出展者等多数の参加のもと開会式が2階エスプラナードの10ホール入り口前で行われました。主催者である玉光日本建設機械化協会会長の開会挨拶, 大石技監, 中島次長の来賓挨拶とテープカットにより開会し(写真-1), 協賛団体の代表によるくす玉開披によって開場しました。



写真-1 開会式のテープカット

■□□

会期中はほぼ好天に恵まれ, 初日10,500人, 2日目13,500人, 最終日17,000人, 合計41,000人強, 1日平均で13,700人の来場者があり, 過去2回のうちでは最も多い1日当たりの来場者でした。初日, 2日目は仕事関係の来場者が主体で, 一般の子供や女性は散見される程度でしたが, 最終日には多くの女性や子供達が訪れました。なお, 2日目には近傍の小学生約100人が授業の一環として訪れました。見学後の感想文に本物の機械を見たり運転席に座ったりした体験がいきいきと書かれていました。

海外からも多くの来場者がありましたが, 2日目には中国の中国土木工程集団会社の総経理他在日駐在員を含め23名の来場があり, 日本の優れた建設機械を2時間以上

にわたり見学し, 今後とも日本の技術を学び, 取り入れていきたいと話されていました。

一般展示では31社の出展があり, 道路舗装機械, 油圧ショベル等それぞれの出展者が扱っている主要機械やリサイクル関連の建設機械の実物が展示されました。自走式のコンクリートクラッシャー, コンクリート建築物や木造建築物の解体機械, 解体用のアタッチメント(写真-2)や小型機械による形鋼の切断実演などもありました。全体としては会場がこれまでより狭いことなどもあり実機展示が制限されたのを, 大型ディスプレイを使った映像によるプレゼンテーションなどにより各社の建設機械の優れた性能や特徴を分かりやすく説明するなど, 工夫が凝らされていました。



写真-2 解体機械のアタッチメント部

□■□

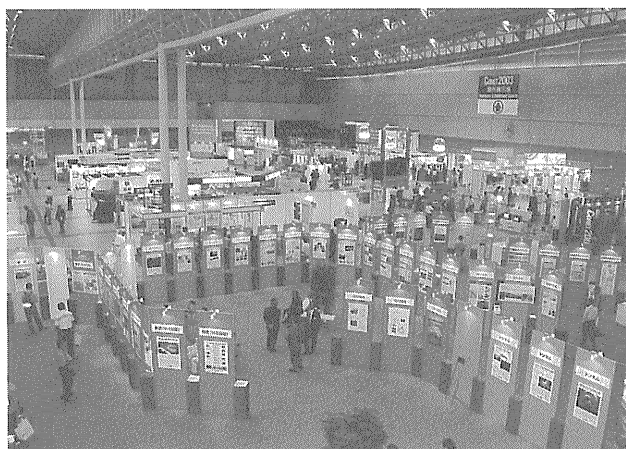
特設コーナーでは60以上の大学・会社・団体等の協力のもと約230枚のパネルが展示されました。大規模土工, ケーソン・連壁等の基礎工, 道路事業と工事(道路公団・首都高速道路公団), 環境やリサイクルに対応した各種の舗装(道建協), 鉄道事業と工事(鉄建公団), 橋梁工事(本四公団, 橋建協, PC建協), トンネル工事(トンネル協), 河川技術(土研), ダム工事(ダム協), 各種シールド機械, 免震・耐震技術, ドーム構造物, 高層建築工事, 各財団・団体の事業, 本協会による災害防止・安全対策, 環境・リサイクルに関するパネルが展示されました。合わせて, 2つのケーソン模型とトランスポンダの展示, ダム

コーナーにおける液晶ディスプレイ等を用いた専門家による丁寧な解説（1日約500人程度の方がダムへの理解を深められたようです）、その他ビデオの上映やパソコンを用いた建設情報への会場からのアクセス体験などがありました。また、アカデミー（大学）ロボットコーナーではパネル40枚と7つの実機や模型、エンジンコーナーでは4つのエンジンが展示され、好評を博しました。無人化施工コーナーでも模型とディスプレイを用いて建設機械の操縦体験が楽しめました。キッズコーナーのラジコン・リモコンコーナーも同様でした（写真—3）。



写真—3 オペレーターを目指す子供たち

特設コーナー（写真—4）は中央側入り口付近に設置されたマルチビジョン、人型ロボットの展示等もあって大いに賑わいを見せ、日本の建設施工技術を理解するのに大いに役立った、じっくり見たかった等の御意見を多数頂きました。



写真—4 特設コーナーパネル展示

マルチビジョンではメーカー、建設業、アタッチメント、その他の出展会社から提供された約3分程度のビデオ28本、1サイクル合計約80分の映像を上映しました。30人余りが坐れる椅子を用意したこともあり、画面に見入って

いる人が多く見られました。

屋外では国土交通省九州地方整備局九州技術事務所の「ロボQ」、同北陸地方整備局北陸技術事務所の「共用変換器」による油圧ショベルの遠隔操作実演、東京工科大学のフィールドロボット「アルマジロ」の実演が午前1回、午後3回の1日4回、3日間で12回の実演が行われ約1,200人以上の人々が見学されました。

最終日の午前11時よりマルチビジョン前で、公共事業に用いられる建設機械や建設施工技術への正しい理解を深めるものであることから、「暮らしやすいまちづくり」と題して女性による社会資本整備に関するシンポジウムが開催され、国土交通省総合政策局建設施工企画課・佐野課長にもコメントータとして参加いただきました。バリアフリーに配慮したインフラストラクチャ整備の必要性、住民の意向が反映された街づくりの大切さ、質の高いインフラストラクチャ整備のためには取得価格の質の高い施工機械が必要などの意見が出され、活発な議論が展開されました。用意された座席には女性も目立ち大きな拍手のうちに終了しました（写真—5）。



写真—5 パネルディスカッション

□□■

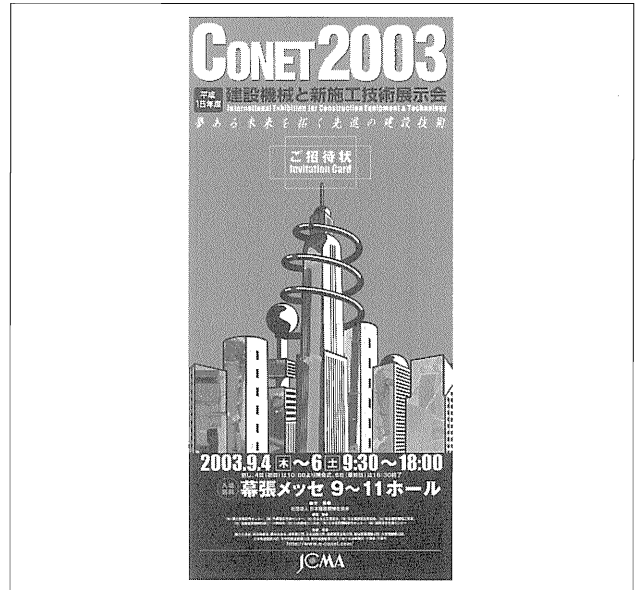
事務局では今後の展示会の参考とすべく来場者を対象にアンケート調査を行い約500名から回答を得ることが出来ました。その概要は次のようでした。回答者は男性が大部分ですが、女性の方も1割程度ありました。その2/3程度が建設関係の民間企業の方で建設業と機械関連の方がほぼ同程度でした。また、来場目的は新技術・建設技術、建設機械・施工法全般の最新情報、新型の機械や傾向を知るためが多く、情報収集の場として活用されていると考えられます。勤務の所在地は東京都が大半でしたが中部や近畿等遠方からの来場者も見られました。展示機械については掘削機械や環境保全及びリサイクル機械等に対する関心が強く、印象に残った展示は機械展示の他、国土交通省や特設

コーナー等でした。特設コーナーの自動化・無人化コーナー、特設コーナーパネル、建設業各社による先端施工技術コーナー（写真-6）、ロボット展示、キッズコーナーなどにも興味を持たれたようです。また、各社の展示ブースに対しては実演・実物への希望が多く見られました。開催情報などについては当協会からの招待状などのほか、ポスター・雑誌・機関誌での記事、地域誌等にも効果が見られました。開催時期に対する希望は7月から12月、開催年については1年後が大半でした。



写真-6 先端施工技術コーナー

最後に、8月号の「CONET 2003 の見どころについて」の中で、国土交通省の展示スペースにおいて「災害対策車の展示や試乗があるものと思われます」と記しましたが誤りであり、訂正してお詫び申し上げます。「展示内容には大いに期待が持てます」と記した部分につきましては、実際にはそれ以上の展示内容でした。



絵で見る安全マニュアル 〈建築工事編〉

本書は実際に発生した事故例を専門のマンガ家により、わかりやすく表現しています。新入社員の安全教育テキストとしてご活用下さい。

■要因と正しい作業例

- ・物動式クレーン
- ・電動工具
- ・油圧ショベル
- ・基礎工事用機械
- ・高所作業車
- ・貨物自動車

A5判 70頁 定価650円（消費税込） 送料270円

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8（機械振興会館） Tel. 03(3433)1501 Fax. 03(3432)0289